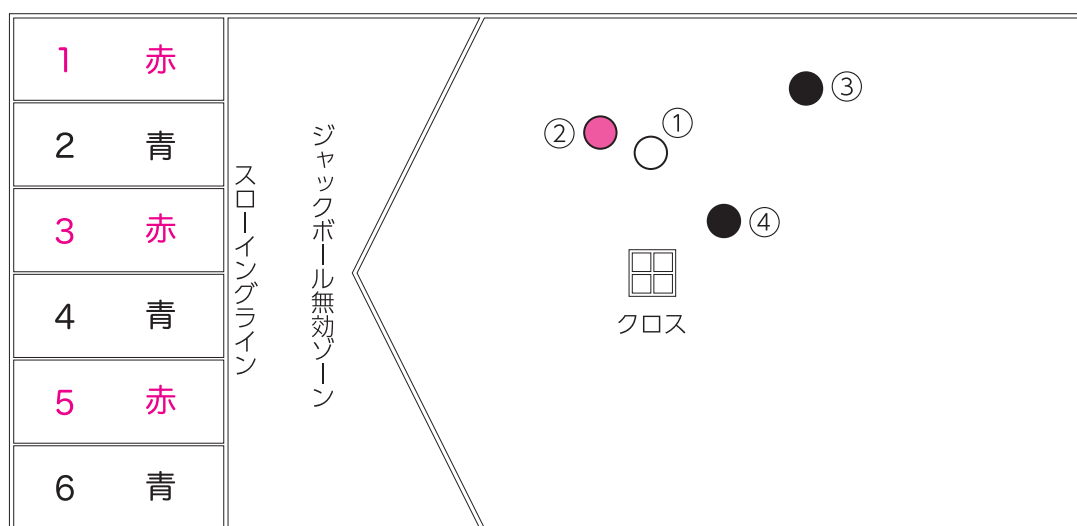


## ルール

- 1対1で行う個人戦、2対2で行うペア、3対3で行う団体戦があります。
- いずれも1チーム6個のボール（赤または青）をジャックボール（白）に近づけるように投げます。
- 投球の順番（下図参照）
  - ① 赤チームの左端の人がジャックボール（白）を投げます。  
ジャックボールがV字のラインを越えなければ、青チームの左端の人がジャックボールを投げます。（有効エリアに収まるまで、交互に投球します）  
※2ゲーム目は青チームの左端の人が投げて、後は同じ要領で進行します。
  - ② ①と同じ人が赤ボールを投げます。
  - ③ 青チームの誰かが青ボールを投げます。
  - ④ 赤ボールより青ボールの方がジャックボールが遠いので、続けて青チームの誰かが青ボールを投げます。
    - これ以降はジャックボールに遠いほうのチームの誰かが投げます。
    - どちらかのチームの投げるボールがなくなれば、もう一方のチームが連続して投げ、全てのボールを投げ終えた時点で1エンドが終了します。
- ラインを越えてコートの外に出た赤または青のボールは無効となります。
- ジャックボールがコートの外に出たときは、ジャックボールはクロスを中心に戻ってきます。

※相手や自分のボール、またはジャックボールを投球によって動かすことで、ゲーム状況を大きく変えられることが、ボッチャゲームの魅力です。

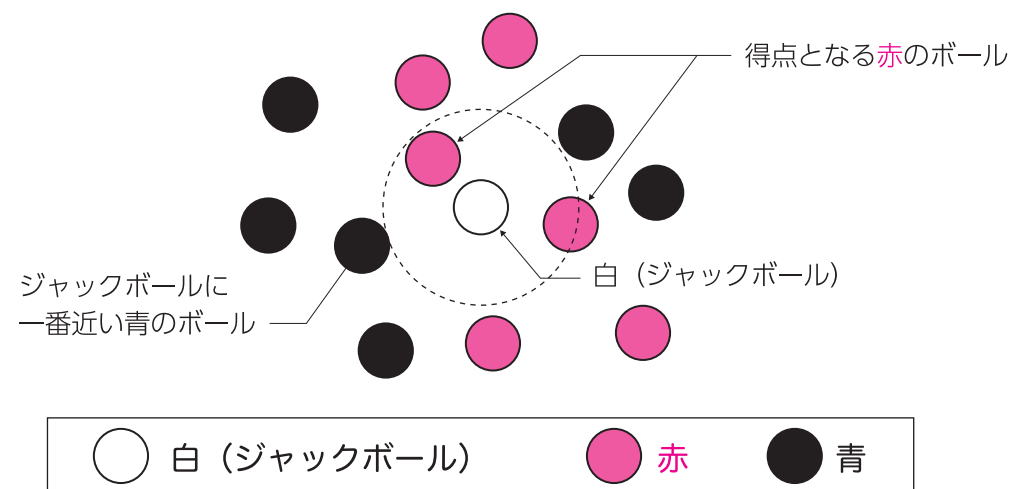


○ 白 (ジャックボール)    ● 赤    ● 青

※個人戦は3・4、ペア戦は2～5、団体戦は1～6のスローイングボックスを使用します。

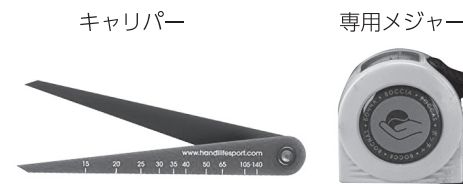
## 得点（下図参照）

1. 双方のチームが6個ずつのボールを投げ終わり、1エンドが終了しました。
  2. 双方のチームの最もジャックボールに近いボールを比較し、どちらが近いかを判定します。（下図の場合は赤です）
  3. ジャックボールに遠かった方のチーム（青）の、ジャックボールに一番近いボールとジャックボールを結んだ線を半径とし、ジャックボールを中心とした円（点線 で表示）を描き、その円の中に何個の赤ボールがあるかを数え、その数が得点となります。（下図の場合、赤が2点、青が0点となります）
- 双方のボールがまったく等距離のときのみ1対1となります。〔注1〕
  - 個人戦とペア戦は4エンド、団体戦は6エンド行い合計得点を競います。〔注2〕
  - 原則、エンド毎に先行と後攻は入れ替わります。〔注3〕
  - ボールを投げられない人は補助具を使うことができ、また介助を受けることもできます。（介助者はゲーム中コート内を見てはいけません）



## 注釈

〔注1〕 目視で距離の判定が困難な場合は、専用メジャーやキャリパーと呼ばれるコンパスを使用します。



〔注2〕 使用するボールはそれぞれ6個＝6投です。

個人戦は一人6投、ペア戦は一人3投、団体戦は一人2投となります。

〔注3〕 有効となるジャックボールを投げたチームに先行権があります。